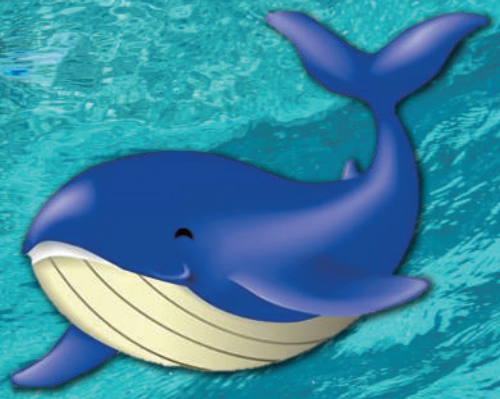
マリンブルー とがしき

国立沖縄青少年交流の家 開所50周年 記念誌

平和・希望・未来

NATIONAL
OKINAWA
YOUTH FRIENDSHIP
CENTER



独立行政法人　国立青少年教育振興機構
国立沖縄青少年交流の家
NATIONAL OKINAWA YOUTH FRIENDSHIP CENTER

50th Anniversary

渡嘉敷村とは運命共同体
渡嘉敷村民とは共存共栄

国立沖縄青少年交流の家
開所50周年 記念誌

平和・希望・未来

NATIONAL
OKINAWA
YOUTH FRIENDSHIP
CENTER

独立行政法人　国立青少年教育振興機構
国立沖縄青少年交流の家
NATIONAL OKINAWA YOUTH FRIENDSHIP CENTER

国立沖縄青少年交流の家
開所50周年記念誌

第１章　開所50周年記念式典

2　式　辞
国立沖縄青少年交流の家所長
山　里　　望

3　挨　拶
独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長
古　川　　和

4　祝　辞
文部科学大臣
盛　山　正　仁
沖縄県教育委員会教育長
半　嶺　　満
渡嘉敷村長
新　里　武　広

7　青少年代表メッセージ
法人ボランティア
橋　本　和　弘

8　記念式典

12　式典開始までの風景

13　式典後お見送りまでの風景

16　**第２章　50年のあゆみ**
～写真より50年の歴史をふりかえる～

第３章　きずな

36　功労者･感謝状受賞者

37　寄附者及び協力団体

38　利用者数の推移状況

39　あとがき

第1章
First Chapter

国立沖縄青少年交流の家
開所50周年記念式典

式辞

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立沖縄青少年交流の家
所　長　山　里　　望

本日、ご多用にもかかわらず多くのご来賓の皆様のご隣席を賜り、国立沖縄青少年交流の家開所50周年記念式典を挙行できますことはまことに光栄であり、厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、当交流の家は昭和47年５月、沖縄の祖国復帰を記念して全国第10番目の国立青年の家として設置、開所に向けて準備が進められ、翌、昭和48年５月４日に熊本県荒尾市の平井青年教室11名を最初の研修団体として受け入れが開始されました。

設置当初は米軍基地の跡地であることが顕著であり、米軍が使用している施設･設備をそのままに、宿泊棟や食堂棟などの改修と管理棟、研修棟、浴室棟などの新設工事が進められ、順次、野球場やグラウンド、スポーツ棟などを整備、新設し現在の充実した施設となりました。

広大な敷地の中には現在も米軍が使用していた建築物などその名残りを見ることができますが、沖縄県民また渡嘉敷村民のアイデンティティが継承される場所として様々な意義深い特色ある活動プログラムが展開され、これまでも多くの青少年に生きる力を育んでおります。

また、本館施設の改修、新設と併せて様々な困難を乗り越え美しい山の緑とマリンブルーに輝く海の自然を満喫できる素晴らしい場所にキャンプ場と海洋研修場が設置されました。

設置への強い思いと努力のおかげで開所以来訪れる利用者の心に残る意義深い体験活動の機会を提供することができています。

これも偏に、青年の家設置までに、ご苦労とご尽力をいただきました故山中貞則元大臣をはじめとする村民並びに関係した皆様及び設置決定を受けて渡嘉敷島という素晴らしい場所に思いを乗せて開所準備を進められた先達の皆様のご尽力の賜物であると心より敬意と感謝を表します。

50年を振り返りますと、行政改革により平成13年４月には国の直轄から「独立行政法人国立青年の家」に移管、平成18年４月には、青少年教育施設３法人が統合され、新たに発足した「独立行政法人国立青少年教育振興機構」に移管されるなど、青少年教育施設の置かれる環境が大きく変化し、時代の流れとともに新たな青少年課題に取り組める環境の整備が進められてきました。

戦後我が国は、高度経済成長を経て著しい発展を遂げ、その一方で激動する社会の変化の中で青少年を取り巻く環境が急速に変化してきました。工業社会から情報化社会と時代変遷をたどり、現在AI等の進化に伴う仮想空間や現実空間が高度に融合する時代が到来し、社会は予測困難な時代へと移り変わってきています。

また、近年、新型コロナウイルス感染症拡大により社会活動が停滞する中で人と人をつなぐ情報伝達技術ICTを活用したコミュニケーションシステムが急速に実用化され、リアルな対面コミュニケーションが困難な状況でも社会活動を停滞させない社会構造が構築されています。

このことは、便利で迅速な社会活動の実現とともに、仮想世界でのバーチャルな学習活動や集団活動、体験活動等が可能となることを意味する一方で、リアルな体験で培われる青少年の健やかな身体や思いやりの心、規範意識等、豊かな心を育む機会が減少することとなり、青少年の健全な成長に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

そのため学校や社会教育施設、青少年教育施設では新たな青少年課題への対応としてより豊かな体験活動の推進が求められています。

予測困難な時代を生き抜くために必要な知識や技能、感性や情操、関心や意欲の醸成を図る体験活動の機会を充実させることが、私たちに課せられた大きな責務として捉え、誰一人取り残さない青少年教育プログラムの充実、深化に努めていく所存です。

このような状況の中で、開所50周年の節目を迎え、これまで当施設運営の充実・発展にご尽力くださいました方々に感謝を表する機会、また、当施設の今後の更なる充実・発展に資する契機を得ることができました。この先10年、20年と引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに式典開催にあたりご理解とご協力、ご支援を頂きました渡嘉敷村、沖縄県教育委員会、琉球大学をはじめとするご臨席の皆様及び関係各位に厚く御礼を申し上げ式辞と致します。

独立行政法人国立青少年教育振興機構
理事長　古　川　　和

挨拶

国立沖縄青少年交流の家は、全国で10番目の国立青少年教育施設として、昭和48年に開所し、この度、50周年を迎えることとなりました。この間、283万人以上の方に様々な体験活動の機会の場を提供し続けられましたのも、ひとえに地元沖縄県や渡嘉敷島をはじめ、関係の方々や地域の諸機関、また多くの学校、青少年関係団体など、皆様からの深い御理解と変わらぬ支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

沖縄県の本土復帰を記念し設置された交流の家は、米軍基地跡地の平和利用という県民アイデンティティの象徴として、開所後は、村民の協力のもと基地跡地を活用した平和学習を実施してまいりました。地域一体となり、渡嘉敷島をはじめとする慶良間諸島の歴史、文化について学び、これからの社会の将来を考える機会を創出してきました。

また、慶良間諸島は碧く透き通る海、白いサンゴ礁などが広がる環境の美しさから国立公園に指定されています。その環境下での自然体験活動は、子供たちにとってかけがえのない経験となっています。中でも、「無人島アドベンチャーキャンプ」は、その美しい自然環境の中、仲間と共に過ごし、冒険、チャレンジ、自己を見つめ直すことで、他者や自然との共存の大切さや自然の雄大さを肌で感じ、自己成長、自己実現を図ることを目的に、地域と共に開所当初から実施しています。

近年、都市化や情報技術等の発達によって、直接的な体験や自然に触れる機会が減少しています。子供たちにとって、デジタルが身近な存在になりつつある中、自然や仲間、伝統、文化と直接触れ合う「リアルな体験」こそ、これからの社会において価値あるものであり、次代を担う青少年にとって大切なことであると考えています。

新型コロナウイルス感染症によって、子供たちの体験活動の機会の減少に拍車がかかり、さらに、家庭の経済環境等によって体験格差や不登校の問題等が生じているとの指摘もあります。

このような状況を踏まえて、当機構では豊かな自然、感性を揺さぶる場、仲間との主体的・能動的で協同的な学びができる環境下において、子供たちの体験の重要性を広く家庭や社会に普及啓発していけるよう、「誰一人取り残すことなく、すべての子供たちに良質な体験を提供する」ことを目指しています。

むすびに、今日まで国立沖縄青少年交流の家を御支援いただいております地元関係者の皆様をはじめ、全国の関係者の皆様に、改めて心から感謝を申し上げますとともに、引き続き国立沖縄青少年交流の家及び国立青少年教育振興機構の取組に御協力、御支援を賜りますことをお願い申し上げます。

令和６年１月19日

文部科学大臣
盛　山　正　仁

祝辞

本日ここに、国立沖縄青少年交流の家が開所50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

国立沖縄青少年交流の家は、沖縄県の祖国復帰を記念し、米軍基地跡地の平和を希求する思いを寄せて、昭和47年５月に全国10番目の国立青年の家として、渡嘉敷島に設置されました。

慶良間諸島のサンゴ礁を生かしたスノーケリングや、カヤック、カヌー等の海洋研修の充実を図り、また、無人島での集団生活を通して協調性を身に付けることを目的とした「無人島アドベンチャーキャンプ」や課題を抱える青少年の自立を支援する「とかしきチャレンジキャンプ」など、社会の動向を見据えた魅力的な教育事業を展開し、よりよい未来を創造する青少年の育成に努めてこられました。

昭和48年６月の開所から今日まで延べ280万人を超える多くの方々に様々な体験活動や交流の場を提供いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

昨年６月には新たな「教育振興基本計画」が閣議決定されました。本計画においても、減少した青少年の体験活動の機会の充実のため、青少年教育施設が中核となって、地域・企業・青少年教育団体・学校等の連携により、自然体験や集団宿泊をはじめとした様々な体験活動の充実や指導者の育成、資質の向上に取り組むこととなっております。

「体験活動」の機会を充実させていくうえで、青少年教育施設は大変重要な役割を担っています。所長をはじめ職員の皆様におかれましては、これまでの活動や経験から培ってきたノウハウやネットワークを生かし、多様な分野の方々と連携を図りながら青少年教育の一層の振興に向けて、御尽力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、これまで青少年交流の家をお支えいただきました地元沖縄県、渡嘉敷村及び沖縄県教育委員会をはじめとした関係の皆様、さらに施設運営に御尽力いただきました施設業務運営委員の皆様や、青少年交流の家の歴代の所長及び職員の皆様に感謝申し上げます。国立沖縄青少年交流の家の今後ますますの活動の充実、並びに独立行政法人国立青少年教育振興機構の御活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

令和６年１月19日

沖縄県教育委員会
教育長　半　嶺　　満

祝辞

独立行政法人国立青少年教育振興機構国立沖縄青少年交流の家が開所50周年を迎え、本日ここに、記念式典が挙行されるにあたり一言ごあいさつを申し上げます。

国立沖縄青少年交流の家は、沖縄県祖国復帰（昭和47年）の年から、50年の長きにわたり、めぐまれた自然環境の中で心身ともに健全な青少年の育成を図り社会教育の振興に大きく貢献していただきました。

当施設は、世界屈指の透明度を誇るマリンブルーの海に囲まれた慶良間諸島に立地し、スノーケリングやカヤック、大型カヌー等のアクティビティを通じて青少年の健全な育成に努めてきました。また、開所以来継続している「無人島アドベンチャーキャンプ」や課題を抱える青少年の自立を支援する「いきいき自然キャンプ」等はこれまでも充実したプログラムとして高く評価されております。

これまで多くの青少年に体験活動をはじめとする様々な活動の機会と場を提供するために、歴代所長をはじめとする職員の皆様に多大なご尽力をいただいたことに対し深く敬意を表します。また、長きにわたり地域に愛される施設として、その役割を果たすことができましたのも、地域の皆様の御支援と御尽力の賜であり、衷心より感謝を申し上げます。

昨今は、デジタル化やコロナ禍等の影響を受け、子供たちのリアルな体験不足や家庭の経済環境によって体験機会に格差が生じているとの指摘もあります。

また、令和元年の青少年の体験活動に関する意識調査においては、子供の頃に家庭や青少年教育施設等で自然体験活動を多く行った者ほど自己肯定感、自律性、協調性や積極性といったいわゆる非認知能力が高くなる傾向がみられることが明らかになっています。

そのような中、青少年にとって様々な形で人や自然とふれあい、学んでいく機会をもつことはますます重要となり、当施設への期待が大きくなっております。

沖縄県教育委員会は、「国立沖縄青少年交流の家」との間で平成23年12月に「包括的連携に関する協定」を結ばせていただいております。引き続き、学校教育と社会教育を一つとする学社融合の視点も踏まえ、連携協力して参りたいと考えております。

結びに、国立沖縄青少年交流の家がこれまで以上に多くの利用者に親しまれ、発展していくことを願いますと共に、本日、御参会の皆様のますますの御健勝と御活躍を祈念申し上げ祝辞とさせていただきます。

令和６年１月19日

渡嘉敷村
村長　新　里　武　広

祝　辞

本日ここに、沖縄の本土復帰を記念して、昭和47年に設置されました「国立沖縄青年の家」現在は「独立行政法人マリンブルーとかしき　国立沖縄青少年交流の家」が創立50周年の節目を迎えられましたことを心からお祝い申しあげます。

昭和47年の創設以来、青少年の健全育成を担う施設として、地域の特性を活かした魅力ある研修プログラムを実施し、これまで県内外から多くの研修団体を受け入れ、地域社会への貢献はもとより、本村の振興発展にも大きく貢献してきたことは、ご承知のとおりであります。

顧みますと、昭和47年に沖縄が本土復帰することが決定され、米軍フォークミサイル基地の跡地であった当地を、当時の「沖縄担当国務大臣であられた故山中貞則氏」が、行政視察で訪問された際に、沖縄に「国立の青年の家」を設置したいという構想があり、その時の村長懇談会の中で、この基地跡地が最適であるとの考えを示され、その後、「山中大臣」や文部省及び関係機関のご努力により、青年の家の設置が決定され、昭和48年６月24日「河野文部政務次官」をお迎えし、国内で十番目となる「国立沖縄青年の家」の開所式が盛大に挙行されたという事です。

本村の歴史の一ページを飾るにふさわしい施設の誕生で、当時の村長、「故玉井喜八氏」をはじめ、村民こぞって青年の家の開所をお祝いし、その喜びようは今でも深く私達の先輩方の心の中に残っておられるとのことです。

あれから50年、幾多の施設改修や環境整備等が行われておりますが、これも偏に文部科学省や関係機関及び歴代の所長、職員の皆様方のご努力の賜であり、あらためて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

しかし老朽化に伴い施設改修、環境整備は今後も計画的に行う必要があると思われますので関係機関、特に管轄の文部科学省におかれましては予算の確保等、人材の確保について村としてもご尽力をお願いしたいと思います。

開所以来、「国立沖縄青少年交流の家」と「渡嘉敷村」は、双方が運命共同体と位置付けており、常に密接な関わりを持って行動を共にしております。さらに令和３年９月１日には、新たに両機関が包括的な連携のもと、両機関の有する資源及び教育、文化、スポーツ等の分野で相互に協力し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び未来を担う人材の育成に寄与する目的で、包括的連携に関する協定を締結しております。

今日我が国を取り巻く環境は日々激しく変化し、さまざまな課題に直面しています。

これまで当交流の家での研修を積んだ多くの青少年が、社会の各界各層で活躍されていることと思いますが、今後とも次代を担う多くの若者が渡嘉敷島に集い、自然豊かな環境の中で研修を深めていただくとともに、環境問題やエネルギー問題、自然災害、昨今の不安定な世界情勢から戦争への不安等、この地が「平和」についても考えるきっかけとなる地となることを願います。

社会情勢の変化に伴い、施設運営を取り巻く環境についても、変化を余儀なくされる状況もあるかとは思いますが、本村としてはいかなる状況の中においても、青少年の健全育成を担う研修施設としての使命を果たせるよう、引き続きバックアップしていく所存であります。

終わりになりましたが、「マリンブルーとかしき国立沖縄青少年交流の家」の限りなきご発展と、次の60周年に向けて新たな歴史を作っていくこと、そしてご列席の皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げお祝いの挨拶といたします。

令和６年１月19日

青少年代表メッセージ

法人ボランティア
橋　本　和　弘

私が大学進学を機に携わるようになった渡嘉敷島でボランティア活動も、今年で４年目を迎えます。渡嘉敷島の豊かで生命溢れる自然環境の中で行われるボランティア活動は、事業に参加してくださる方々や、その事業を企画・運営し、支えてくださっている職員の方々との関わり合いの中で行われ、４年という短い間ではございますが、私の事を大きく成長させてくださったと感じております。また、それと同時にボランティア活動は、参加する度に新たな発見や学びをもたらしてくれる場でもありました。今の私にとって、ボランティア活動とは、人や自然との豊かな関わり合いの中で育まれる、生きがいそのものであると断言できます。

令和５年度に行われた「わくわく自然体験inとかしき」は、私のボランティア活動への熱を再確認できた事業となりました。これは学生ボランティアが自主企画を立ち上げて運営する事業であり、小学５、６年生と中学生を対象として、渡嘉敷島の豊かな自然とのふれあいや、新しく出会った異なる世代の仲間と絆を深める機会とすることを趣旨に行われました。そこでは、渡嘉敷島ならではの自然体験活動を通して子どもたちにどのような経験をしてほしいかについて、ボランティア同士で夜通し話し合い、子どもたちが自然体験活動に参加することの価値だけでなく、渡嘉敷島の自然の豊かさや良さを改めて確認することができました。また、ボランティアがそれぞれの強みをどう生かすか、子どもたちにいかに良い経験をさせてあげられるかについて考えることで、ボランティア自身が、自然体験活動の流れの中で自身を価値づけ、成長する機会にもなりました。さらに、事業終了後、子どもたちから出た「楽しかった」「もっと渡嘉敷島にいたかった」という声は、「ああ、本当に事業を企画して良かった」という、充実した気持ちにさせてくれました。これらの経験から、私たち学生ボランティアが、「自分のためのボランティア活動」という視点と、「誰かのためのボランティア活動」という視点の両方を往還させながら事業に参加することで、ボランティア活動をより充実したものにすることができるといえます。ボランティア活動を続けるうえで、自分のためでもあり誰かのためでもあるという精神性は、私のボランティア活動の軸にもなっております。

また、今、学生を主体とした渡嘉敷島におけるボランティア活動は、更なる充実を目指した過渡期にあります。自主企画事業に関わらず、ボランティアそれぞれが自分の役割を持ち、強みを生かしながら事業に携われるよう、職員の方々が工夫してくださったことで、今まで以上に事業企画の一員としての自覚や責任感を持ちながらボランティアに参加できるようになりました。事業における自覚や責任感は、転じて、事業が成功したときの喜びを倍増させてくれたり、自己有用感を高めてくれたりします。これらを原動力としながら青少年教育は充実していき、ここ渡嘉敷島においても、地域資源を存分に活用した、十年後、二十年後の未来に繋がる活動を行うことができるのではないかと感じております。

渡嘉敷島でのボランティア活動で経験したことは私にとって何より尊いものであり、子どもたちとの関わりにおける価値観を刷新してくれるものでした。五十周年という節目を迎えた、国立沖縄青少年交流の家が、渡嘉敷村民の皆様や職員の皆様と共に歩んできた歴史の中で、こうしてボランティア代表として僭越ながら挨拶の機会をいただいたことを大変誇りに思いつつ、今後のボランティア活動を担う次代の学生たちが、主体的に青少年教育、及び自然体験活動に力を尽くしてくれることを期待し、青少年代表メッセージといたします。

令和６年１月19日

山里所長の式辞

古川理事長の挨拶

玉城教育指導統括官の祝辞

八木社会教育振興総括官の祝辞

新里村長の祝辞

法人ボランティア 橋本さんのメッセージ

記念式典
Ceremony

式典式次第

場所：国立沖縄青少年交流の家講堂
日時：令和６年１月19日（金）13時00分～14時00分

オープニング：管楽演奏　ブラスアンサンブル　ソフィアーレ
1　開式の辞
2　国歌斉唱
3　式　　辞　国立沖縄青少年交流の家　所長　**山里　望**
4　挨　　拶　独立行政法人 国立青少年教育振興機構　理事長　**古川　和**
5　来賓祝辞
　文部科学大臣（代理　総合教育政策局 社会教育振興総括官　**八木　和広**）
　沖縄県教育委員会教育長（代理　教育指導統括官　**玉城　学**）
　渡嘉敷村長　**新里　武広**
6　来賓紹介
7　祝電披露
8　青少年代表メッセージ
　法人ボランティア　**橋本　和弘**
9　功労者表彰・感謝状贈呈
10　閉式の辞

司会　新里次長

式典参列者

式典の様子

来賓の皆様

功労者表彰

感謝状授与

高額寄付者・協力者への感謝状

式典開始までの風景

慶良間太鼓でお出迎え

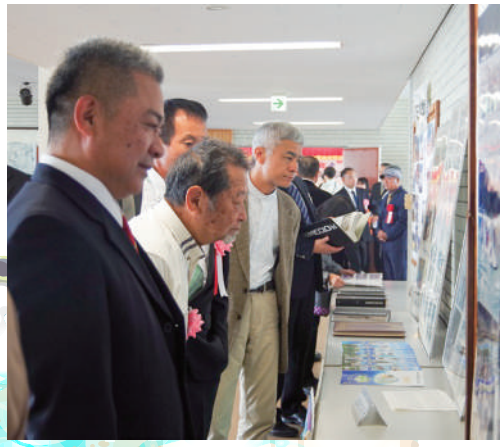
下船風景

慶良間太鼓でお出迎え

下船風景

受付風景

式典前後の演奏会 ソフィアーレ様



これまでの歩み（写真掲示）

演奏を聴く皆様

受付 渡嘉敷村役場の皆様

昼食風景

式典後お見送りまでの風景

渡嘉敷港お見送り

渡嘉敷港お見送り

お見送り

慶良間太鼓の皆様

渡嘉敷港お見送り

第2章
Second Chapter

国立沖縄青少年交流の家

50年のあゆみ

写真より50年の歴史をふりかえる

1

昭和34-52年度

1958-1978

THE HISTORY

昭和34年度

昭和35年３月８日　渡嘉敷村へホークミサイル基地建設が告知
３月22日　米民政府より土地収用宣告、接収命令

昭和37年度

６月１日　基地完成。約250人の米兵駐留

昭和44年度

８月２日　基地閉鎖
（閉鎖後も米軍管理下に置かれる）

昭和46年度

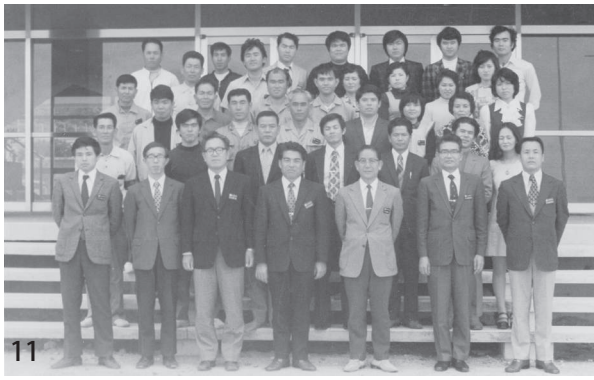
昭和47年２月28日　沖縄青年の家の設置準備始まる。文部省の森田清青少年教育課長補佐を団長に10名の視察団が来島し、調査に当たる

昭和47年度

５月15日　沖縄の祖国復帰
祖国復帰を記念し「国立沖縄青年の家」設置
５月17日　記念式典挙行。卓球場（現ボクシング場）横のポールの星条旗を降ろし、日本の国旗である日の丸を掲揚
７月１日　本館工事開始
11月１日　仮事務所を設置（現中央公民館敷地内）
海洋研修場の選定・整備始まる
昭和48年３月16日　所旗を制定（安次富長昭琉球大学教育学部教授がデザイン）

昭和48年度

４月27日　海洋研修船、和船「あさかぜ」（５トン、定員12名）とクルーザー「トリトン号」（4.5トン、定員８名）配備
５月１日　本館完成。管理事務及び研修業務を開始
５月４日　最初の研修団体として、熊本県荒尾市の平井青年教室11名を受け入れ
５月10日～12日　最初の主催事業「宿泊研修担当者研



1. 設置決定を祝う式典（本館施設内）左から玉井村長、金城所長、今村社会教育局長、津嘉山県教育長他青年の家職員（S47年５月）
2. 国旗掲揚（設置を祝う式典）／3.　看板を掲げる金城所長（S47年11月）／4.　最初の研修団体受け入れ（S48年５月）
5. 「第一けらま丸」就航（S48年５月）／6.　開所式　左から今村社会教育長、河野政務次官、金城所長、川崎青少年教育課長
7. 開所式における文部大臣式辞（河野洋平文部政務次官）（S48年６月）／8.　キャンプ場ダム造成作業の職員（S50年２月）
9. 「わかしお」就航（S49年11月）／10.　にし山に「あさぎ」（茅ぶき小屋）を建てる職員（S52年２月）／11.　開所時の職員集合写真

修」を開催
５月15日　「第一けらま丸」（定員465名）就航
６月１日　職員宿舎完成
一戸建て４棟と長屋形式宿舎
６月24日　河野洋平文部政務次官をはじめ、沖縄県関係及び渡嘉敷村関係者を招き、盛大に開所式を挙行
７月４日　４隻（１隻９名定員）のカヌーを配備
昭和49年２月17日　柔道場開き

昭和49年度

８月29日　体育館新営工事に着手
11月12日　緊急連絡艇「わかしお（定員20名）」が就航
昭和50年１月　キャンプ場ダム建設開始（３月完成）

昭和50年度

５月１日　体育館完成。11日に落成式
昭和51年３月31日　海洋研修場の艇庫が完成
カヌー引き上げ用ウインチ設備設置

昭和51年度

７月27日～30日　主催事業「高校生海洋研修」で、第19回メキシコオリンピック大会マラソン銀メダルの君原健二氏が特別講演
12月１日～４日　主催事業「集団宿泊指導担当者研修」で、プロ野球の元読売巨人軍監督で文部省初等中等教育局視学委員の川上哲治氏が特別講演
昭和52年１月５日～２月28日　西展望台付近に、「あさぎ（茅葺き小屋）」を職員で建築

昭和52年度

10月１日～２日　主催事業修了者数名がキャンプファイヤー場の整地作業を実施
昭和53年３月15日　キャンプ場のシャワー棟が完成
男女別にシャワー室、便所、更衣室が完備
テント保管用倉庫も完成
３月31日　ラバーコール仕上げのテニスコートが完成

50 th Anniversary

昭和53-60年度

1977-1986

THE HISTORY

昭和53年度

11月29日　キャンプ場の周囲にハブ侵入防止用の網を設置

昭和54年３月27日　第１宿泊棟各研修棟、講師棟の窓枠をアルミサッシに改修

昭和54年度

４月１日　琉球大学、沖縄県教育委員会との職員の人事交流に関する覚書及び申し合わせ取り交わす

11月12日　宿泊棟の便所の改修工事着工

昭和55年度

８月13日　キャンプ場ハブ防止用塀新設工事開始

12月５日　ミサイル発射台、ミサイル格納庫等を撤去し、総合グラウンドのための整地工事開始

昭和56年度

８月14日　海洋研修監視船「にしやま（定員８名)」を配備

10月20日　第２ミサイル基地跡撤去工事開始

1．旧米軍基地ミサイル発射台、発電所跡／2．ハブ防止ネット／3．創立10周年式典（S57年11月）
4．創立10周年祝賀会／5．ヒータティヤー跡／6．総合運動場開き（S58年5月）
7．1981年（S56年）頃のトカシクビーチ（おきなわグラフより）

昭和57年度

5月15日　創立10周年記念事業として、赤間山のヒータティヤー跡に史跡碑を建立
10月1日　創立10周年を記念して、旧職員寄贈による魔除け「シーサー」（具志川焼窯元：名護宏明氏制作）を本館正面玄関前に設置
11月7日　創立10周年記念式典・祝賀会を挙行
昭和58年3月30日　西展望台のミサイル発射台、旧米軍発電所の撤去作業が完了

昭和58年度

5月15日　総合運動場開き
故裁弘義氏の指導の下、沖縄水産高校と豊見城高校の硬式野球招待試合を開催
12月16日　旧米軍施設の一部を改修し、野外研修センターとして転用

昭和60年度

昭和61年2月3日　浴室棟のボイラー取り替え工事完了
2月28日　体育館外部壁面等補修工事完了
3月15日　旧木工室を卓球場棟に移動し、談話室に改装
3月31日　講師棟内部模様替え工事完了

1

昭和61－平成4年度

1986-1993

THE HISTORY

昭和61年度

昭和62年３月17日　第１宿泊棟内部の模様替え工事完了
３月27日　本館講師室及び同浴室の内部模様替え工事完了

昭和62年度

９月26日　創立15周年記念事業として、第１回「渡嘉敷村まつり」が渡嘉敷港桟橋をメイン会場に開催
この祭りで「慶良間太鼓」「渡嘉敷村まつり音頭」「阿波連音頭」が誕生

11月７日　創立15周年記念式典挙行
３月28日　本館周辺に、ハブ侵入防止用コンクリートハブ塀一部1,200mが完成

昭和63年度

６月１日　バイキング給食を開始
７月９日　第２回「とかしきまつり」を本所体育館を主会場に開催
平成元年１月７日　年号が「昭和」から「平成」となった

1. 創立 15 周年記念式典（S62年11月）／2. 本館ハブ堀一部完成（S63年３月）／3. フェリーけらま就航（H１年11月）
4. 第１回渡嘉敷村まつり（S62年９月）／5. 50 万人達成セレモニー（H２年12月）
6. キャンプ場バンガローを建築する職員（S62年７月）／7. 20 周年記念碑除幕式（H４年11月）

平成元年度

11月12日　フェリーけらま（定員594名）就航
400名以上の大型団体の一度での乗船が可能になる

平成２年３月12日　体育館の改修工事完了
床をゴムから板張りに交換

平成２年度

12月22日　延べ宿泊利用者50万人達成セレモニー開催

平成３年３月25日　キャンプ場のシャワー・トイレ棟の２棟目工事が完了

また、本館管理研修棟２階講堂、ロビー、大研修室のタイルの貼り替えと和室の改修工事が完了

平成３年度

11月26日　キャンプ場給水管改修工事が完了

平成４年度

11月６日　創立20周年記念式典を挙行

平成5年３月８日　キャンプ場屋根付き炊飯場新営工事が完了

３月31日　食堂棟及び第一宿泊棟（さんご）の冷房設備工事完了

50 th Anniversary

平成5－14年度

1993-2003

THE HISTORY

平成５年度

平成６年３月15日　緊急連絡艇「かりゆし（定員15名）」を配備

平成６年度

12月５日　宿泊施設「すばる棟（定員60名）」が完成。各部屋トイレ、バス付きでホテル並みの設備になる

平成７年度

平成８年３月13日　環境教育の一環として「海の展示資料室」を管理研修棟１階に設置し、ジオラマ、写真パネル、模型等を展示

３月25日　海洋救助艇「にしやまⅡ（定員11名）」を配備

平成８年度

10月31日　本館のハブ防止用コンクリート塀増設工事が完了。今回で、敷地内全面を取り巻く2,890mの塀が完成

平成９年３月21日　キャンプ場身障者用スロープ敷設工事が完了

平成９年度

11月18日　本所の愛称を「マリンブルーとかしき」に選定

11月29日　国立沖縄青年の家ＯＢ会「とかしき会」の結成

12月25日　新しい職員宿舎が完成

平成10年３月20日　本館玄関前車寄せ建築工事が完了

３月25日　キャンプ場緊急避難用バンガロー（あざみ）が完成

1. 第３宿泊棟（すばる）完成（H6年12月）／2. 第 18 回村駅伝優勝／3.「竜神」配備／4. とかしき会結成
5. オリンピアン巡回指導谷口浩美氏来所講演（H12年）／6. 宇宙飛行士毛利衛氏来所講演（H12年）
7. 新食堂「ちゅらうみ」完成（H13年）／8. 高速船マリンライナー就航（123 総トン）（H12年７月）
9. 衣笠祥雄氏来所講演（H13年）／10. ボクシング場開き（H13年）

平成10年度

平成11年３月31日　大型カヌー竜神（定員21名）を１艇配備

平成11年度

12月10日　本館に身障者用リフト、トイレ、スロープを設置
平成12年３月７日　本館アルミサッシ窓の取り替え、暴風戸、身障者用トイレ、事務室カウンターを設置

平成12年度

７月１日　高速船「マリンライナー（定員200名）」就航
11月11日　宇宙飛行士毛利衛氏、来所し講演
平成13年３月９日　キャンプ場第２シャワー棟の全面温水化工事完了
３月27日　新食堂棟（ちゅらうみ）が完成。定員180名

平成13年度

４月１日　独立行政法人国立沖縄青年の家へ移行
12月22日　ボクシング場のリング開き

平成14年度

11月30日　創立30周年記念式典を挙行

1

2

3

4

平成15-24年度

2003-2013

THE HISTORY

平成15年度

平成15年４月19日　野球場開きセレモニーとオープニングゲーム（糸満高校対沖縄工業高校）開催

平成16年度

平成17年３月25日　第一宿泊棟（さんごA）耐震改修工事完了

平成17年度

平成17年11月14日　アテネ五輪競泳女子金メダリストの柴田亜衣氏による講演

平成18年２月28日　第一宿泊棟（さんごB）耐震改修工事完了

平成18年度

平成18年４月１日　独立行政法人国立青少年教育振興機構へ移行

平成20年度

12月　クロスカントリーコース整備

平成21年度

平成22年２月末日　宿泊棟・研修棟・浴室棟耐震補強完了

３月31日　つつじ棟解体工事完了／既設給水槽をすばる棟1階ロビーへ和室を新設／多目的ホールをマルチルームへ改修

1. エンジョイ・シーカヤックｉｎとかしき（H16年11月）／2. 渡嘉敷島ふれあい学習（H17年９月）
3. さんごわんだーわーるどナイトスノーケル（６月）／4. とかしき島環境フォトフェスタ（H22年３月）
5. 最後の青年対象無人島事業　追い込み漁（８月）／6. 沖縄スリランカプロジェクト（H24年９月）
7. 沖縄県教育委員会と協定書調印（H23 年 12 月）／8. 渡嘉敷村と連携協力協定の締結（H23年１月）
9. とかしき国立沖縄青少年交流の家「創立 40 周年記念式典」（H24年10月）

平成22年度

平成23年１月13日　日本アマチュアボクシングの村田諒太選手、清水聡選手が本所で８日間の合宿

３月15日　基幹・環境整備工事完了（管理棟・体育館・講師棟・野外研修棟・浄水設備・浄化槽設備・非常用発電整備・艇庫管理棟）

平成23年度

平成23年12月19日　沖縄県教育委員会と包括的連携に関する協定を締結。主な内容としては次のとおり

１．幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教育の充実及び教員の資質向上に関すること

２．青少年教育の振興に関すること

３．生涯学習及び文化、スポーツの振興に関すること

４．その他上記の目的を達成するために必要な事項に関すること

渡嘉敷村と避難所施設利用に関する協定を締結

平成24年３月24日　フェリーとかしき就航

平成24年度

平成24年10月20日　創立40周年記念式典挙行

1

2

3

4

5

THE HISTORY 2014-2016

平成25-27年度

平成25年度

7月　公式【Facebook】開設

12月20日　マスコットキャラクターの愛称を公募、「とかしっきーケラ丸くん」に決定

12月24日　「無人島アドベンチャーキャンプ2013　～みんなとちがう夏・冒険しようぜ！～」が安藤財団 自然体験活動支援事業 第12回トム・ソーヤースクール企画コンテスト 推奨モデル特別賞を受賞

平成26年３月５日　慶良間諸島（渡嘉敷村、座間味村）が31番目の国立公園に指定される

平成26年度

慶良間諸島国立公園指定と合わせて広報活動を強化。「感動王国」をキーワードに広報誌の作成、リーフレット・のぼり旗等をリニューアル

6

8

7

9

10

1. アジアの架け橋　沖縄スリランカプロジェクト（H25年９月）／2. 渡嘉敷小学校スノーケリング学習（H25年９月）
3. ファミリー自然体験 in とかしき（H26年２月）／4. 親子ふれあい餅つき大会（H26年２月）
5. 国立沖縄青少年交流の家マスコットキャラクター愛称募集表彰式（H26年１月）
6. 渡嘉敷島ふれあいコンサート －美里中吹奏楽部－（H26年８月）／7. いきいき自然体験キャンプ（H26年９月）
8. ホエールウォッチング（H27年２月）／9. 遊びリンピック in 沖縄（H26年10月）
10. わくわくキャンプ（H26年８月）

50 th Anniversary

THE HISTORY 2017-2019

平成28-30年度

平成28年度

6月26日,7月3日　渡嘉敷島観光大使、キックボクシング日本チャンピオン廣虎（Hiroto）氏によるキックボクシング体験教室実施

平成29年度

平成30年2月10,17,18日　ホエールウォッチング実施

平成30年度

9月22,23日　新規事業「幼児からの自然体験指導者研修」実施

平成31年1月19日　体験の風をおこそうフォーラムin沖縄「幼児から充実した体験活動を～これからの教育・保育」実施。保育士、幼稚園教諭等、約500名参加

3月27日　野球場改修工事完了（黒土投入、防球ネットの全面補修）

1. とかしきエンジョイクラブ（H28年５月）／2. 渡嘉敷小学校セカンドスクール（H28年６月）
3. 無人島キャンプ 2016（H28年７月）／4. 親子で自然体験 in とかしき（H29年４月）
5. 東海市沖縄体験学習（H29年６月）／6. とかしきキッズフェスタ（H30年11月）
7. 美ら島サンゴ大作戦（H29年10月）／8. 読書まつり in とかしき（H30年10月）
9. 常夏四季自然体験クラブ（H30年11月）／10. とかしき島ふれあいコンサート －プチエスカルゴー（H31年２月）

1

2

3

4

5

6

THE HISTORY 2020-2022

令和元ー令和3年度

令和元年度

5月1日　年号が「平成」から「令和」となった

令和2年2月28日　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主催事業の中止及び利用者の受け入れ中止（3月24日まで）

令和2年度

4月16日　政府の緊急事態宣言が沖縄県に発出、翌日から利用者の受け入れ中止

5月14日　緊急事態措置解除、6月1日から利用者の受け入れ再開

8月6日　新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用者の受け入れ中止（9月7日まで）

令和3年1月21日　新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用者の受け入れ中止（2月7日まで）

3月26日　公式【YouTubeチャンネル】開設

令和3年度

4月12日　新型コロナウイルスまん延防止措置により、翌日から教育事業を中止・延期

5月23日　政府の緊急事態宣言が沖縄県に発出、翌日から利用者の受け入れ中止

7月12日　日帰り利用のみ受け入れ再開

9月30日　緊急事態措置解除、翌日から利用者の受け入れ再開

令和4年1月12日　新型コロナウイルス感染拡大防止のため宿泊利用の受け入れ中止　※日帰り利用は受け入れ可能（1月31日まで）

7

8

9

10

11

12

1. 幼児からの自然体験活動指導者研修会（R１年６月）／2. 教員免許更新講習（R１年８月）
3. 冬季通学合宿（R２年６月）／4. さんごを通して学ぼう！（R２年７月）／5. チャレンジキャンプ（R１年８月）
6. 親子で凧揚げ体験（R１年１月）／7. 美ら島さんご大作戦（R２年９月）／8. ちびっこ大集合（R２年９月）
9. あそびリンピック in とかしき（R３年 11 月）／10. オリエンテーション合宿（R４年２月）
11. 親子で自然体験（R４年３月）／12. 子どもゆめ基金 20 周年記念事業「岡野雅行氏サッカークリニック」（R３年 12 月）

50 thAnniversary

1

2

3

4

5

6

7

8

THE HISTORY 2023-2024

令和４－５年度

令和４年度

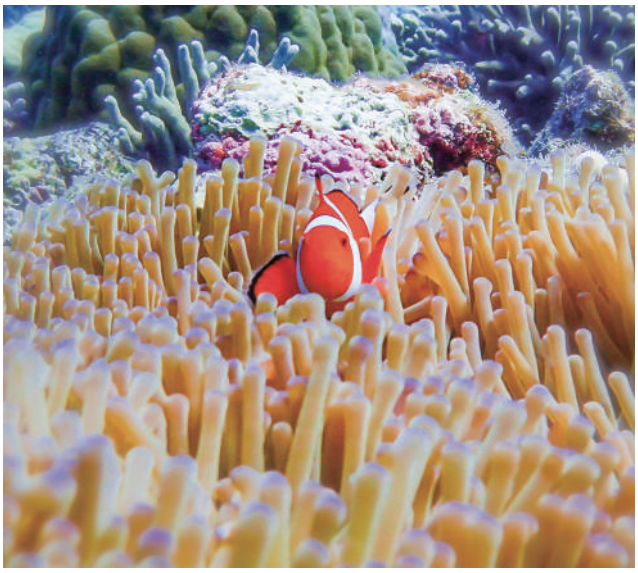
５月15日　創立50周年を祝う会を職員・村内OBで挙行
８月11日　公式【LINE】運用開始
８月26日　公式【Instagram】運用開始

令和５年度

５月８日　新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行
令和６年１月19日　開所50周年記念式典挙行

1. 創立 50 周年記念（R４年５月）／2. 渡嘉敷ボランティアスクール（R４年 10 月）
3. とかしきキッズフェスタ（R４年 11 月）／4. 親子で書初め体験（R５年１月）
5. 親子で自然体験＆絵本の世界（R４年 12 月）／6. 九州地区青少年教育施設協議会職員研修会（R５年２月）
7. 親子で自然体験（R５年３月）／8. 親子で自然体験（R５年３月）／9. とかしきボランティアスクール（R５年５月）
10. 無人島アドベンチャーキャンプ（R５年７月）／11. 親子で自然体験とかしき in（R５年９月）
12. 無人島アドベンチャーキャンプ（R５年７月）／13. いきいき自然体験キャンプ（R５年９月）
14. 読書まつり in とかしき（R５年 12 月）／15. わくわく自然体験 in とかしき（R５年 10 月）
16. 防災キャンプ（R５年 12 月）

50 th Anniversary



第3章
Third Chapter

国立沖縄青少年交流の家

きずな

功労者・感謝状受賞者

功労者表彰

当交流の家の施設業務運営委員また運営委員長として、20 年間以上にわたり当所の事業の充実発展と教育事業の向上にご尽力され、青少年教育の振興並びに青少年の健全育成に多大な貢献を賜りました。

功労者　吉田　　章 氏

当交流の家の非常勤講師として、多年にわたり事業運営にご尽力され、青少年教育の振興並びに体験活動の充実発展に多大な貢献を賜りました。

功労者　照屋　寛信 氏
大城　　敏 氏
森　有紀子 氏

感謝状贈呈

当交流の家の事業活動への深いご理解のもと、多年にわたり施設運営への協力に努められ、青少年教育の振興に多大な貢献を賜りました。

渡嘉敷村

当交流の家の事業活動に深いご理解のもと、多年にわたり給食業務をはじめ運営支援に努められ、青少年教育の振興に多大な貢献を賜りました。

株式会社　沖縄ダイケン
小禄　　茂　氏
小禄　邦子　氏
石垣　　充　氏

このたびの開所 50 周年記念事業に対し、多額のご寄附をいただきました。

株式会社　国際印刷
株式会社　ザバレスエンタープライズ
とかしき観光バス　合同会社
三田井　裕　氏

寄附者ならびに協力団体

国立沖縄青少年交流の家開所 50 周年記念事業の実施にあたり、多大な御貢献をいただきましたことに感謝の意を表し、御寄附ならびに御協力いただいた皆様の御芳名を紹介させていただきます。温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

＊寄附者の掲載は印刷の都合上、令和６年３月 31 日までの受付順です。敬称は省略させていただきます。

寄附者

法　人

(株)きんだい通商／(株)開邦工業／ヤシマ工業(株)／(株)沖縄ダイケン／(株)協和ガス／(有)設計集団 閃
(株)ビコー／(株)東恩納組 ／(有)ザバレスエンタープライズ ／(株)国際印刷 ／沖縄水質改良(株)
とかしき観光バス(同)／山城砂販売所／けらまマリン／リラックスアイランド／沖縄第一モータース(株)
シャ・ポード・パイ／新垣商店／(有)オリンピア運動具店／(有) 渡嘉敷石油／ Sportopia(同)／(公財) 修養団

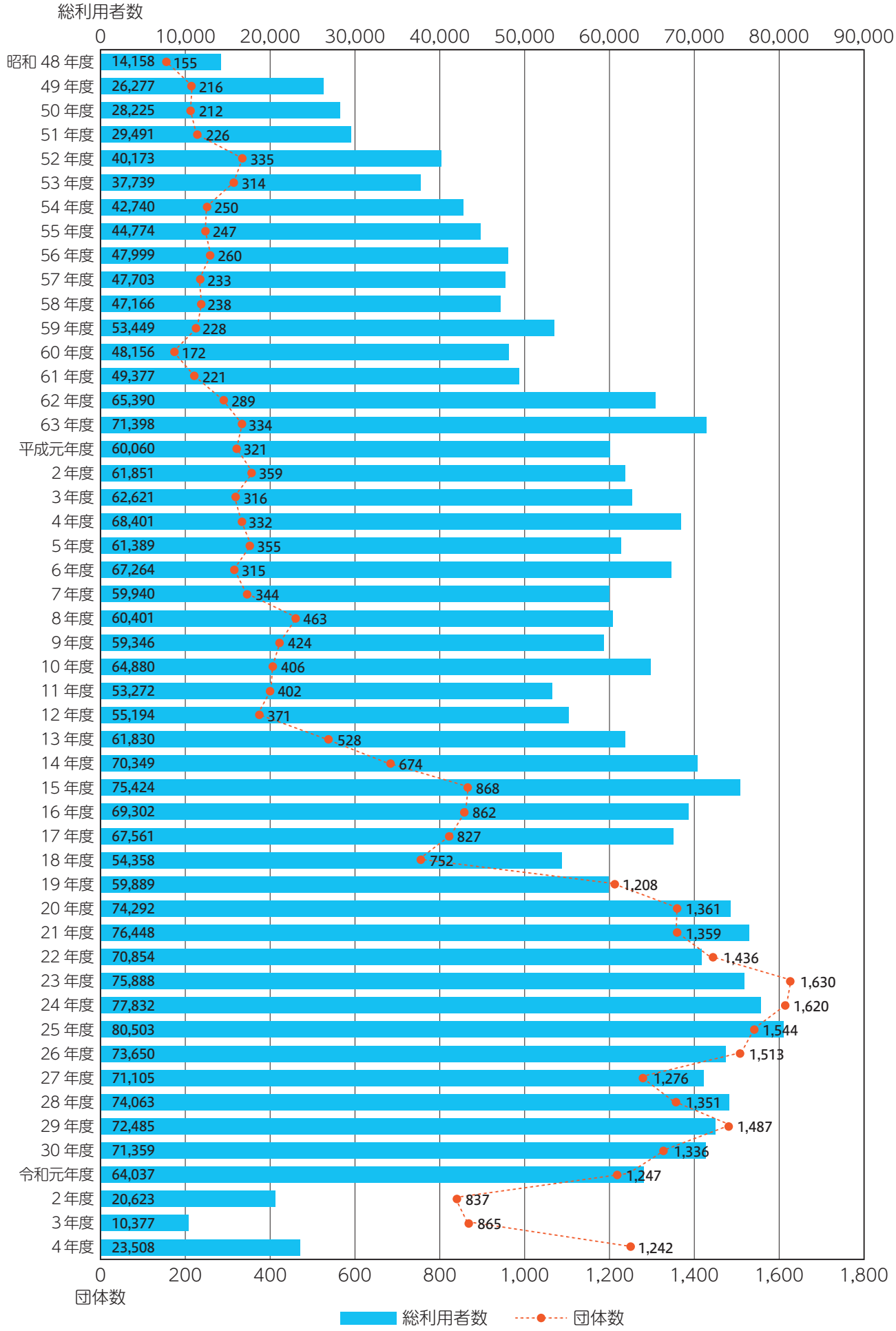
個　人

平良政吉郎	土器弥生	兼城克男	相澤敬二	田山宗則	岩下清二	垣花正男	梅津孝一
濱元　伸	川本芳春	佐藤良一	茅野敏英	眞喜志和人	仲地雄太	服部英二	宮里昇二
小嶺信行	大城辰秀	米田英明	安　　学	座間味光秀	宮里和宏	渡辺哲二	新里武光
照屋藍蓮	水澤豊子	金城　孝	細田幸弘	真壁義隆	三角一彦	池田正勝	金城健一
木村清一	財部二千六	金城隼人	与那覇明弘	崎浜秀政	稲福　真	仲宗根勉	上原雅志
下地　進	田邉敬一	仲里　健	早川忠光	北岡哲治	當山 清林	西原盛浩	村山盛経
與座盛圀	山城榮子	玉城　真	新垣隆二	國仲貴光	平良正哉	與儀滝太	西原琢哉
大城良孝	照屋　智	三田井裕	金城　肇	下地孝之	稲福太一	玉城　守	小嶺智治
玉城　俊	新田宗宏	式田　翠	中村　元	三海るみ子	源河　崇	上野裕一	友利博明
大城　敏	儀間光明	渡久地政信	木島祐太朗	黛生　世	黒島直人	比嘉孝司	島袋勝範
知念勝美	金城光彦	兼久和也	上門圭太	呉屋武郁	當眞啓介	新垣雄大	本郷弘子
屋宜　優	玉城妃奈子	島　　諒	西村達輝	鹿川和美	伊禮静雄	小嶺安雄	山入端津由
諸見謝尚	高山大介						

協力団体

渡嘉敷村　　慶良間太鼓同志会　　ブラスアンサンブル ソフィアーレ　　とかしき観光バス（同）
（株）ザバレスエンタープライズ

利用者数の推移状況


総利用者数
0
10,000
20,000
30,000
40,000
50,000
60,000
70,000
80,000
90,000
昭和 48 年度 14,158 155
49 年度 26,277 216
50 年度 28,225 212
51 年度 29,491 226
52 年度 40,173 335
53 年度 37,739 314
54 年度 42,740 250
55 年度 44,774 247
56 年度 47,999 260
57 年度 47,703 233
58 年度 47,166 238
59 年度 53,449 228
60 年度 48,156 172
61 年度 49,377 221
62 年度 65,390 289
63 年度 71,398 334
平成元年度 60,060 321
2 年度 61,851 359
3 年度 62,621 316
4 年度 68,401 332
5 年度 61,389 355
6 年度 67,264 315
7 年度 59,940 344
8 年度 60,401 463
9 年度 59,346 424
10 年度 64,880 406
11 年度 53,272 402
12 年度 55,194 371
13 年度 61,830 528
14 年度 70,349 674
15 年度 75,424 868
16 年度 69,302 862
17 年度 67,561 827
18 年度 54,358 752
19 年度 59,889 1,208
20 年度 74,292 1,361
21 年度 76,448 1,359
22 年度 70,854 1,436
23 年度 75,888 1,630
24 年度 77,832 1,620
25 年度 80,503 1,544
26 年度 73,650 1,513
27 年度 71,105 1,276
28 年度 74,063 1,351
29 年度 72,485 1,487
30 年度 71,359 1,336
令和元年度 64,037 1,247
2 年度 20,623 837
3 年度 10,377 865
4 年度 23,508 1,242
0
200
400
600
800
1,000
1,200
1,400
1,600
1,800
団体数
総利用者数
団体数

あとがき

開所 50 周年事業を実施するにあたり準備段階から様々な課題をクリアしながら、何とか事業開催にたどり着き、多くの皆様のお力添えの中、無事計画通り成功裏に終えることができました。ご承知のとおり島でのイベント開催は荒天時の対応を含めた実施計画が必須です。式典、祝賀会等、延期や中止のできない催しを島で企画する場合、本島会場の準備もあわせて計画をしなければなりません。できる限り本館施設での開催を目指して、波や船の運航状況など、これまでのデータを参考に開催日時を決定しますが、自然の気まぐれを予測して計画をすすめることが、島に位置する本施設運営のルーティンとなっています。

荒天等の判断は直前まで難しく、決断するまで頭痛の種となります。またこの判断は島または本島いずれかの会場にキャンセルが発生することを意味します。特に祝賀会を開催した場合、食事を提供する関係上、キャンセルは予算及び食材等に多大なロスが発生することも念頭に判断する必要があり、判断がより難しくなります。このような様々な課題を踏まえ、残念ながら今回は式典のみとすることを決定した経緯がありました。

本来周年記念事業は創立から数えて節目の年に開催されることが殆どです。しかしながらコロナウイルス感染症拡大にともない先行き不透明な状況の中で創立記念事業の実施に向けて様々な苦労を乗り越えて準備に当たられた、当該年度職員には心から感謝の意を表します。おかげをもちまして時間をかけて開所記念事業として実施に取組むことができました。

また、開所記念事業を成功に結び付けましたのは、惜しみない献身的な労力を発揮し準備にあたった現職員、食堂従業員の尽力はもとより、渡嘉敷村はじめ村民の皆様、OB 各位、協賛企業・団体など多くの皆様からのご寄付並びに協賛・協力の賜物とここに誌面をお借りして心から厚く御礼申し上げます。

創立当初から 50 年の時代の変化は凄まじく、現在は Society5.0、予測困難な時代など、これからの時代を生き抜く人材の育成は私たち今を生きる人の知恵や力を発揮し、時代を担う若者に持続可能な社会を創造する資質を培うことだと考えます。そのためには、人と人の絆を深め相互理解、互助・支援、共助・協力など支え合う環境づくりが必要だと思います。渡嘉敷村という素晴らしい環境の中で私たち施設の使命を果たすことができるのも、これまで熱い思いで運命共同体として支えていただいた渡嘉敷村をはじめ村民の皆様、そして OB の皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げますとともに、今後も深めた絆をさらに強固なものとして引き続き支えていただきますよう心からお願い申し上げます。

開所 50 周年の節目を迎え、これまで当施設運営の充実・発展にご尽力くださいました方々に感謝を表する機会を得ることができました。また、当施設の今後の更なる充実・発展に資する契機を得ることができましたことはこの上ない喜びであり、使命を果たすため邁進する思いを改めて気づく契機となりました。今後も関係するすべての皆様の期待に応えられる施設として運営に努めていく所存です。

本誌は、創立 41 年～ 50 年の歩みを刻み、次の 60 年につなげる資料として取りまとめました。式典当日の様子を掲載するにあたり事業終了後に編集し発刊しております。多くの関係者の皆様の記憶に残る記録としてお配りできれば幸いです。

関係するすべての皆様にこの先 10 年、20 年と引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ、巻末の挨拶とさせていただきます。

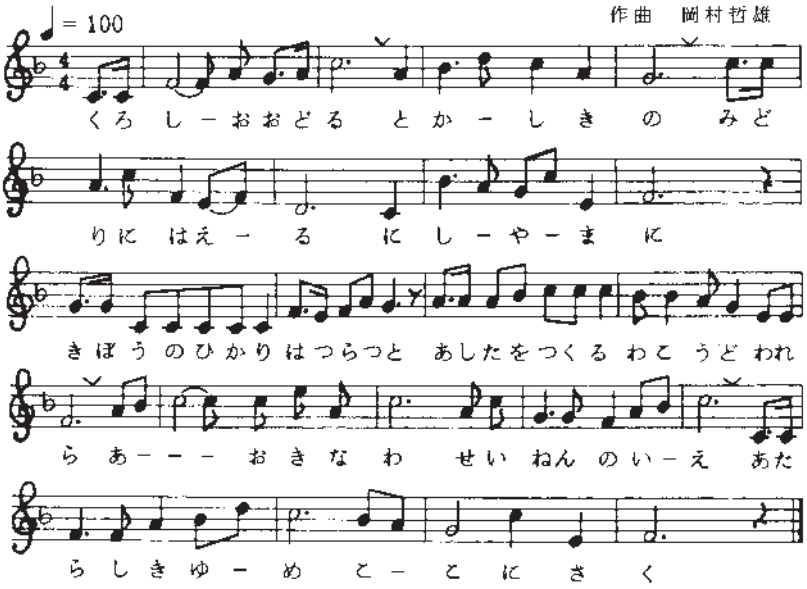
令和６年３月吉日

国立沖縄青少年交流の家

所長　山　里　　望

国立沖縄青年の家の歌

作詞　友寄景勝
作曲　岡村哲雄



一、
黒潮おどる　渡嘉敷の
みどりに映える　にし山に
希望のひかり　はつらつと
明日をつくる　若人われら
あゝ沖縄青年の家
新しき夢　ここに咲く

二、
さんごの海に　澄める空
渡嘉志久浜の　白浜に
歓喜の歌　あふれきて
明日を誓う　若人われら
あゝ沖縄青年の家
新しき友　ここに集う

三、
紅そめる　山脈に
高い理想の陽がもえる
輝くひとみ　たくましく
明日を担う　若人われら
あゝ沖縄青年の家
新しき力　ここに湧く

（昭和五十一年度発表）

開所50周年 記念誌

平和・希望・未来

2024年4月30日　発行

編集・発行
独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立沖縄青少年交流の家
〒901-3595
沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷2760
TEL：(098)987-2306（代）　FAX：(098)987-2318
http://okinawa.niye.go.jp/
E-mail:okinawa@niye.go.jp

印　刷
株式会社　国際印刷
〒901-0147 沖縄県那覇市宮城1-13-9
TEL：(098)857-3385（代）

NATIONAL
OKINAWA
YOUTH FRIENDSHIP
CENTER